

(第76回) プロジェクト・制度評価分科会の評価結果について



NO. 2-7	事業名 : 「水素社会構築技術開発事業/研究開発項目Ⅱ:大規模水素エネルギー利用技術開発事業」(終了時評価) スマートコミュニティ・エネルギーシステム部					
事業期間 : 2014年度～2023年度の10年間			費用総額 : 300億円			
委員構成、ポートフォリオ		委員名		NEDO委員歴		
				前身 事業	事前 評価	中間 評価
<p>世界に先駆けた水素発電の実証という明確な方向性に対し、必要となるサプライチェーン構築及び発電技術という観点からの必要な取り組みが行われた10年間に亘る研究開発事業であった。本事業終了後にはグリーンイノベーション基金事業などに引き継がれ、2050年のカーボンニュートラルの実現に繋げていく。</p> <p>委員構成は、アカデミア4名、研究機関2名、シンクタンク1名、合計7名の体制。</p> <p>水素に精通した専門家を中心に、様々な視点からの評価をお願いできる委員から選定を行い、評価の連続性を考慮し中間評価委員から4名にご参加いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分科会長は、中間評価時にも参加され水素全般に対し十分な知見を有するアカデミアを選定。 専門技術分野では、水素貯蔵、運搬、水素燃焼に関する技術面からの評価 市場動向、経済性の視点から評価 エネルギーキャリア、LCAの専門的知見から評価 ユーザー視点からの評価 		河野 龍興 分科会長 東京大学 先端科学技術研究センター 教授			○	
		武田 実 分科会長代理 神戸大学 水素・未来エネルギー技術研究センター センター長			○	
		内本 喜晴 委員 京都大学 大学院 人間・環境学研究科 教授				
		大澤 秀一 委員 大和証券株式会社 エクイティ調査部 副部長 (シニアストラテジスト)			○	
		工藤 祐揮 委員 産業技術総合研究所 ゼロエミッション国際共同研究センター 副研究センター長				
		森田 哲司 委員 大阪ガス株式会社 エネルギー技術研究所 所長			○	
		渡辺 和徳 委員 電力中央研究所 エネルギー変換・エネルギー貯蔵研究本部 プラントシステム研究部門 研究部門長 研究参事				
評価コメント						
肯定的意見		今後の提言				
<ul style="list-style-type: none"> アウトカム達成への道筋においては、外部環境が大きく変化している状況の中で国の目標・戦略が時間軸も踏まえて示されており、ステークホルダーに本事業の情報発信を的確に行いながら、本事業終了後のグリーンイノベーション基金事業など後継事業の実施、あるいは実用化に向けた実施者での継続検討など、自立に向けての取り組みも実施されたことは大いに評価できる。 アウトプット目標も世界最先端レベルでありながらも、それぞれ目標を達成しており、さらにその成果が将来の水素社会における日本の国際競争力強化にもつながると考えられる。 実施体制においては、指揮命令系統及び責任体制を明確にして、実施者は技術力を発揮し事業を推進しており、実施者間の連携においてもより実用化を目指した体制であった。 中間評価結果で対外的なわかりやすい発信を、という指摘を受けて、YouTubeを使ったPR活動を行ったことなども評価できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 2050年の水素社会構築のためには、水素サプライチェーンの拡大が必要であることから、産官学が協働して具体的なシナリオを作り始めることが期待される。また、本事業開始時よりも、諸外国の水素社会実現に向けた取り組みが加速していることから、本事業の成果をさらに発展させ、諸外国との競争において優位性の維持に留意すべきであり、後継のグリーンイノベーション基金事業などで本事業成果を用いた実証などが行われ、アウトカム目標が達成されることを大いに期待する。 昨今の世界のエネルギー事情から、本事業で培った高い水素の技術を海外で早期に事業化する可能性が高いと推察されることから、更なる強い特許戦略を期待したい。 事業者が事業を推進し続けられるように適切な制度・仕組みの策定に向けた取り組みが期待される。また、達成度が未達であった項目については、今後の課題、解決方針及びその進捗を、事業終了後もNEDOとしてしっかりとモニターしていただくことを望む。 				